



IFCA ユース・プロジェクト

International Foster Care Alliance

—社会的養護のもとで育った当事者ユースの活動—

IFCA Foster Care Alumni Project





IFCA Foster Care Alumni Project

IFCAユース・プロジェクト

Contents - 目次 -

この冊子を取るみなさまへ.....2	ストラテジック・シェアリング.....8
IFCA のユース・プロジェクト.....3	ユースと大人のパートナーシップ.....9
今までの活動と成果.....4	日米のユースたちが寄せた、IFCA の活動への思い.....10
日米のユースの活動.....5	用語集.....11-12
渡米プログラム.....6	IFCA ユース・プロジェクトの歩み.....13-14
ユースボイスとは?.....7	

★この冊子の中で使われている、ふたつの言葉について

社会的養護とは

〈社会的養護〉とは、様々な事情で血のつながりのある親と一緒に暮らすことができない子どもの育ちを社会で支えるための仕組み、およびそれを実現する人や場所の営みを指す言葉です。〈フォスターケア〉とは、アメリカで使われている、日本でいうところの「社会的養護」を意味する言葉です。社会的養護には様々な形態があり、家庭環境を基盤としたものには、里親やファミリーホームがあります。また、児童養護施設などの施設でケアが提供されることもあります。

当事者・ユースとは

フォスターケアで育てている子どもや、里親委託や児童福祉施設措置が解除されて、社会的養護のシステムから離れた人のことを指します。この冊子のなかでは、当事者を、端的に「ユース」と呼んでいます。



この冊子を取るみなさまへ



私は、アメリカの西海岸に約40年住み、ソーシャルワーカーとして、新生児から18歳までの子どもたちの福祉にかかわる仕事をしてきました。

2012年に、仲間とともに国際フォスターケア・アライアンス(IFCA: イフカ)という団体を設立した時、私たちにはこんな思いがありました。

- 児童養護施設や里親家庭で育った子どもたち・若者たち(IFCAでは「フォスターユース」または「ユース」と呼びます)が、孤立することなく、安心して一緒に活動できる場所をつくりたい。
- フォスターユースが世界的な視野と自分の考えを持って生きるための機会を用意したい。
- 一緒に活動する大人たちと同等の立場で発言し、お互いの価値を認め合うことができる、そんな団体でありたい。
- ユースたちが、大人になるための大切なスキルを蓄える活動をしていきたい。

関東地方の数名のユースで始まったこのIFCAの活動は大きく成長し、創立者の私たちの期待をはるかに超えて、今では日本各地に広がったチームが、それぞれの地域で生き生きと活動しています。メンバーたちは、アメリカに渡り、そこでの学びを、日本での取り組みの中に生かしています。そして、後輩ユースたちを思いやり、励ましています。かれらの姿を見ると、勇気付けられます。IFCAのユースたちがいつか、社会的養護への差別や偏見を取り除き、ひとりひとりが能力を最大限に発揮して、誇りを持って生活する社会を切り開いてゆくに違いない、と感じています。

この冊子は、IFCAのユースたちが、自分たちの活動について、他のユースや大人に伝える時に、気軽に手渡すことができる、アイデアがぎゅっとつまった情報源をつくりたい、という発想から出来上がりました。たくさんの人たちの手に渡ることを、心から願っています。

2019年2月

IFCA 代表 栗津美穂 (あわづ みほ)

国際フォスターケア・アライアンス(IFCA)は、米国内国歳入法501(C)3の規定に基づき政府に認可されたNPO法人です。

IFCAのユース・プロジェクトは、 ユースの声を発信することで“社会を改革すること”、 そして“ユース自身が成長すること”^{*}を大切に考えています。



IFCAユース・プロジェクトは、
概ね17歳～27歳までのメンバーで構成され、
日々このような活動を行っています。



講演活動

具体的な活動として、行政（厚生労働省や児童相談所など）の招待や依頼を受け、ユースとしての経験や思いなど自分の声を発する講演活動を行っています。講演を行う際には、先輩ユースと共に原稿をチェックしたり、どうしたら伝えたいことがうまく伝わるのかを考えたりします。

仲間や大人との関係づくり

ユースの活動を支えてくれるサポーター・アダルト（SA）^{*}とも相談しながら、ユース自身の言葉が届くように考えていきます。ユース個人で作業することはなく、チーム・メンバーやSAと協力し、仲間や大人との関係づくりができるのもIFCAユース活動の特徴です。

経験の共有や提言

日本の社会的養護制度では、多くのユースが高校卒業とともに措置解除となり、新しい道へと進んでいきます。私たちは、その人生の大切な移行期の中で、自分自身が経験した思いやそこから考えたことを社会に対して発信して行くことで、少しでも自分たちが過ごしやすく、また自分たちの後に社会的養護のもとで生活するユースにとっても過ごしやすい社会になればと考えています。

日本・海外に広がるネットワーク

全国に支部があることもIFCAのユース・プロジェクトの大きな特徴です。現在、東京・静岡・関西・福岡に支部があります。全国に支部があることで、自分が育った土地以外のユースの話を知ることができます。そして何より、全国にユースの仲間が広がり、IFCAを通して全国に友達を作ることができます。また、シアトルにも支部があるため、日本のみならず海外にもユースの仲間ができます。社会的養護のもとで育ったという共通点をもつ仲間が、地域や国を超えてつながることができます。



- ◎ IFCAのユース・プロジェクトを行ううえで、ユース自身の成長は欠かせないものとなっています。ユースの活動の中では、月例ミーティングや年2回の合宿、米国での視察研修、日本での米国チームとの協働、リーダーシップ・プログラム^{*}を通して、ユースにとって新しい発見や成長のきっかけになるようなプログラムが用意されています。
- ◎ 講演活動などに参加することで得られる学びはもちろん大きいものですが、IFCAのイベントをメンバーとともに過ごして行くことで、新しい考え方を知り、価値観が広がったという先輩ユースの声もあります。ユース・プロジェクトは、社会の変革のためだけではなく、ユース自身の成長のきっかけにもなっています。

今までの活動と成果

数字で見るIFCA ユース・プロジェクトの成果

2013年から2018年の5年間で

- ★ 50回以上のイベントを主催・共催し、4500人の人たちに、ユースの声を届けました。
- ★ 18回の渡米・来日プログラムを実施し、40名の日米のユースたちが参加しました。
- ★ 8つの全国・全世界規模の学術集会で、児童福祉の分野で活躍している専門職の人たちとともにスピーチをしました。（名古屋、大阪、千葉、岡山、プエロスアイレス、カルガリー、ボストン、ロンドン）

その他の活動実績

- ★ 里親や、新任ソーシャルワーカーを対象にしたユースの声を届ける研修を行っています。
- ★ 「ストラテジック・シェアリング^{*}」の普及に努力してきました。（*これについては、この冊子の9ページに詳しい解説があります。）
- ★ 全国にユースのネットワークを築き、年間を通じて共に活動しています。アメリカのユースたちとの協働も続けています。



講演活動の様子



日米ユースサミット



数字に表せる成果もとても重要ですが、何よりも、私たちがいちばん大切だと感じている成果や実績は、IFCAの仲間たちの、チームとしての、またメンバー個人としての成長です。

- ★ 例えば、ユースたちは、こんなことを感じながら、IFCAの活動を続けてきました。

日米双方の社会的養護を経験した若者との交流から、それぞれが困難を抱えながらも力強く生きていく姿に触れ、今後自分が生きていく上で大きな勇気をもたらしたように思います。また、様々な価値観に触れ、考え、整理していく過程から自分の中の不全感が少しずつ和らいだように思います。（あおい）

社会的養護について真正面から深く考え、その経験を活かしていこうとする、力強い他ユースたちと、いろんなお話をしたことが、新しい発見や深い学びに繋がり、前向きな気持ちになりました。（M.A.）

私は自らの経験から社会的養護について否定的でした。しかし、IFCAの活動を通して子どもと関わる大人たちの思いや他のメンバーのストーリーを聞き、悪いものばかりではないと気づきました。それによって前向きに生きようと思え、自信ができました。同時に自分の見聞きしたもので判断するのではなく、多角的なものを見方が身につきました。また、人前で自分のストーリーを話すことで自己の整理につながり、講演活動を重ねることでこれまでの経験が無意味ではないのだと思えるようになりました。自分の過去をネガティブに捉えるのはとてももったいないし、悲しいことです。私たちの活動は社会的養護の経験を価値あるものに変えてくれると思います。（みき）

日米のユースたちをつなぎ、 それぞれの国の児童福祉の発展のために活動しています。

日米のユースの活動



アメリカのユースは日本に、そして、日本のユースはアメリカへ、それぞれの国を歩き来し、関心のある分野をリサーチしながら、自分の体験を語るシンポジウムやイベントを互いの国で開催しています。

日本とアメリカのユースが 一緒に活動する理由は？

日本とアメリカ両国の児童福祉の状況を、ユースの実際の経験やユースの考えのもとに比較し、それぞれの国の児童福祉を発展させていけるようにするためです。また、両国を比較することで、改めて自分の国の状況を知ることができます。こうした気づきから、自分自身や他の当事者が置かれている・いた状況が改善され、ユースがより自分らしく、過ごしやすく生活できるように声を上げていくためです。

アメリカのユースと日本のユースの 違いと共通点は？

国や文化や制度による違いはあります。社会的養護を受けていた環境（施設型養育か里親か）などがその例です。また、社会的養護の当事者が声を発するという活動や概念が、アメリカには根付いている印象ですが、日本にはまだ浸透していないと感じています。違いもちろんありますが、当事者として抱えてきた思いは共通することがたくさんあります！



IFCA先輩ユースの声

Q アメリカのユースたちとの活動から何を学びましたか？

A まず、社会的養護の当事者として、自分の声を発することが、過ごしてきた制度や環境に変革のインパクトを与えることができるということを知りました！アメリカのユースたちは、この活動を、アドボカシー*という言葉で呼んでいます。

また、海外に自分との共通点を持った友人ができることは貴重な機会だと思います。特に、ただの国際交流で終わらせるのではなく、お互いの意見や考えを深め合える機会はとても価値があると思います。国も言葉も違うのに、思いが繋がったり、共感できることを知って、驚きと同時にとても嬉しい気持ちになりました。

IFCA先輩ユースの声

Q ユースの活動の中でいちばん印象に残っていることは何ですか？

A 渡米プログラムがいちばん印象に残っています。日本以外の国でユースがどのような生活を送ってきたのを知ることができたのは、とても興味深いことでした。また、社会的養護に関係する専門家から話を聞いたり、ユース自身がスピーチをしたり、IFCAの活動を通して経験できることは、たくさんあります。そしてこれらの経験が、自己成長のきっかけになりました。

渡米期間中、ユースのメンバーと同じ宿舎に泊ったことも印象に残っています。渡米中のプログラムで感じたことやこれまでの自分の経験から考えたことを、夜通し語り合いました。他のユースの考えや意見を聞くことで自分の価値観に変化が起きたり、考えが深まったりします。何気ないことで笑いあったり、カードゲームで遊び倒したことも良い思い出の一つです。

渡米プログラム

プログラムの概要

毎年8月上旬に10日間、選抜メンバーが渡米をし、アメリカの社会的養護について学ぶためにプログラムに参加します。渡米中は、施設見学をしたり、米国で活躍する専門家のお話を聞いたりします。また、ユースから日本の社会的養護や自身の経験についてお話させていただく機会もあります。



8/3 シアトル到着

レンタルした大きな一軒家で寝泊りをします。キッチンにはたくさんの食材が用意されています！



8/4 チーム・ビルディング

米国のユースたちと一緒にシアトル観光をして、チームの仲を深めていきます。とても楽しい時間です！

8/5 トレーニング

IFCAの米国理事や先輩ユースたちから、ユースボイスの価値などについてレクチャーを受け、ワークを行います。もちろん通訳もあります！



8/6-7 視察やレクチャー

2018年は、ホームレス・ユースに支援を行うNPOや社会的養護のユースを法的に支援する団体、退所後の若者に衣類などを提供する団体、自立支援を行う団体など計4団体を視察しました。視察先は、希望を伝えることもできます。

8/8 国際児童福祉合同勉強会

(インターナショナル・ラーニング・コラボレティブ)

渡米プログラムの中で、IFCAが主催する最大のイベントです。2018年は、午前中に米国ユースと米国で活躍する専門職の方が共同で発表を行いました。テーマは、自立支援プログラムや、退所後の実態把握調査、LGBTQフォスターユースについてでした。午後には、日本のユースも加わり、シンポジウムを行いました。

8/9-10 リトリート・デイ

日米ユースが合同で海沿いの別荘地へ移動し、2泊3日の共同生活をしながら、チームでの振り返りやリーダーシップを高めるためのアクティビティを行います。もちろん、海沿いを散策したり、バーベキューをしたり楽しい時間もたくさんあります。お別れの寂しさも感じるひと時です。



8/11 帰国

朝一番に日本のユースは帰路へつきます。涙でお別れです。学んだことをたくさん持ち帰ります！

私たちの活動の目的は、児童福祉をより良いものにする。 「当事者の声」はその大きな力になります。

〈コースボイス*〉とは？

〈コースボイス〉とは、「当事者の声」を意味します。IFCAでは、実際に社会的養護のもとで過ごした経験のあるユースを「社会的養護の専門家（エキスパート）」であると考えています。そして、ユースボイスは、より良い社会的養護を実現していく上で、非常に大切なものであると考えています。

例えば、自分が社会的養護で過ごした中で理不尽だと感じたこと、変えたいと思ったことなどを自分の意見として誰かに伝えたいと思った時、あなたが語るその言葉こそがユースボイスとなります。当事者であるあなたの声は大切なユースボイスなのです。ユース一人ひとり、社会的養護の中での経験は異なっているでしょう。それぞれのユースが十人十色のボイスを持っているのです。

IFCAのユースは、このユースボイスを登壇活動や講演活動、インタビューなど様々な場面で発表し、自分の経験を踏まえた上で、どのようにしたら社会的養護がより良いものになっていくのかを提言しています。例えば、厚生労働省において（もしくは対して）児童福祉法改正に関する意見を述べたり、児童養護施設や乳児院などの社会的養護の施設で働く職員の方々への研修などを行っています。

他にも、日米のIFCAユースのユースボイスを集めたブログ“MY VOICE OUR STORY”の運用や、1年に1度、1つのテーマ(2017年のテーマは「当事者ユースの参画*」)に沿った様々なユースボイスを集めた冊子「ユース・パブリケーション」の発刊を行っています。

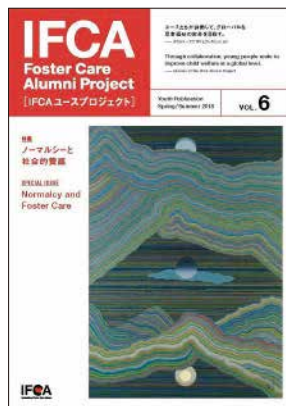
私たち当事者がユースボイスを伝えていくことで、聞き手に様々な影響や良いインスピレーションを与え、社会的養護にポジティブな変化を与えることができます。

しかし、ユースボイスはユースの人生や生き立ちに関する内容が語られることもあるので、正しい伝え方を知らなければ、時にはユースが傷ついたり、悲しい思いをしてしまう場合があります。

そこでIFCAでは、ストラテジック・シェアリングという考え方をういて、「安全で効果的なライフストーリーの伝え方」について知ってもらうという活動も行っています。次のページではストラテジック・シェアリングを紹介させていただきます。



「ストラテジック・シェアリング」マニュアル



冊子「ユース・パブリケーション」

MY VOICE OUR STORY



ブログ「MY VOICE OUR STORY」
<https://myvoiceourstory.org>

STRATEGIC SHARING

自分の人生をどう語るのか、どう伝えるのか…？



～あなたが生きてきた大切な人生の物語を伝えよう～

ストラテジック・シェアリングとは、「効果的で安全なライフストーリーの伝え方」を知ることが出来る考え方です。

これから生きていく中で、自分の人生や生き立ち、過去の経験を語る機会が何度か訪れるかもしれません。例えば、進学や就職の試験や面接、友人との会話、上司や先輩との会話、メディアのインタビューなどがあります。

周囲に、自分の人生をどう語るのか、どう伝えるのかは誰にとっても簡単ではありませんが、社会的養護のもとで育った私たちにとってこの課題は、より一層難しく、悩ましいものとなる場合があります。

そんな時に、ストラテジック・シェアリングを知ることで、自分の人生を語る、伝えるという大きな課題を助けてくれるヒントやツールを、たくさん学ぶことが出来ます。例えば、人前で話すエピソードと、自分の中に大切に仕舞っておくエピソードの分け方を整理することができます。他には、答えたくない質問をされた時にどうやって回避するかといった脱出方法などを学ぶことができます。

また、ストラテジック・シェアリングは、語り手となる私たち当事者だけではなく、当事者へ語ることを依頼した聞き手となる人が気をつけなければいけないこと、尊重しなければいけないことについても書かれています。

語る人もそれを聞く人も、この考え方をすることで、より安全で効果的な語り場を作ることが出来ます。

私たち当事者の語りは、人の心を動かし、聞き手にインスピレーションを与え、ポジティブな変化を生み出すこともあります。しかし、正しい語り方を知らないまま、自分の人生や生き立ちについて語ってしまうと、自分が傷ついてしまうことや、言いたくないことまで人前で話してしまうこともあります。

あなたの声は、重要なメッセージとして大切にされ、正しく聴かれるべきです。また、あなた自身が、自分の人生を語る際に、この語り場は安心できる環境であると感じることも大切です。ストラテジック・シェアリングを通して、ぜひ「効果的で安全なライフストーリーの伝え方」を一つずつ学んでいきましょう。

■「ストラテジック・シェアリング」スライド

なぜストラテジック・シェアリングが必要か？

- 何よりも、ユースの安全性
- ユースがストーリーの主体である：自分にとってどこまで話せる内容か・何を話すかユースが決める
- テーマに沿った話のみを効果的に用いる
- 「かわいそうさ」を話さなくていい
- 危険な質問を断りかた

話の安全度を信号機で表す

当事者にライフストーリーを語ることを依頼するときには？①

- なぜ、当事者に話して欲しいか伝える
- 当事者が十分な準備ができるよう十分な時間を確保することを心がける
- 当事者の語りたくないことを尊重する：話す内容を限定したり、押し付けけない
- 当事者の尊厳を脅かさない：ストーリーの一部を変えたり、編集したり、事実を捻じ曲げない、勝手な解釈をしない

お知らせ

IFCA ユースたちによる「ストラテジック・シェアリング」の講習を実施したいとお考えの団体やグループのみなさまは、こちらのメールアドレスからお問い合わせください。

→ E-Mail : info@ifcaseattle.org

大人のサポーターがいるから、安心して活動できます

ユースと大人のパートナーシップ

IFCAは現在、日本の4か所の都市でユースチームを編成しています。各々の地域チームに、サポーター・アダルト(SA)*と呼ばれる、ユースの伴走者のような大人がいます。

IFCAのSAは、元当事者ユース、弁護士、研究者、臨床心理士、社会福祉士など、さまざまな経歴と職業を持った人たちの集まりですが、かれらのすべてが「SAの特徴」を生かして、私たちと接しています。その特徴は、いくつかありますが、その一つは、ユースのよきお手本になり、励ましやアドバイスを与えることです。また、SAは、ユースがいろいろなことを気兼ねなく話せる、信頼の置ける人物です。IFCAは、「ユース・アダルト・パートナーシップ(YA-P)」*という、若者と大人が対等な立場で一緒に活動する仕方を基に活動を進めてきました。



具体的には、私たちのSAは、ユースが渡米する前の手続きの手助け、スピーチ原稿の校正、講演活動への同行、資料の提供、イベントや月例ミーティングの場所の確保、外部機関との連絡・交渉などの役割を担っています。そして、SAの役目の中でも、とても重要なことは、ユースたちの仕事に対して、建設的なフィードバックを与えるということです。



日米のユースたちが寄せた、IFCAの活動についての思い

IFCAのユース・チームのメンバーになり、何が良かったと感じていますか？



IFCAはそんな私に、自分のストーリーを語る勇気を与えてくれました。自分の経験を語れば語るほど、自分の人生を受け入れることができるようになり、自信ができました。IFCAは私に、心地良い、特別な場所を与えてくれます。私は日本とアメリカのチームメートたちを自分の家族のように感じています。(ちひろ)

IFCAの日米のユース交流プログラムから、自分の社会的養護の中での経験と今後の課題をあらためて考えるきっかけを得て、多くの刺激を受けました。アメリカのユースとは言葉も背景も違うのに、根底にある気持ちや共有する部分は多くあり、どこかで繋がっているという不思議な感覚になりました。それと同時に、日本だけしか見れていなかった自分にとって、視野がとてま広がりました。もっと知りたい!もっと勉強したい!もっと動きたい!もっと伝えていきたい!という自分の原動力にもなりました。(れい)

IFCAが私たちに安全な場を与えてくれたので、ユースだけでなく、専門職の人たち、施設や里親家庭で日々、子どもたちのケアにあたっている人たちと、自由に交流することができました。そして、このプログラムは『困難に打ち勝ち、精神的にも社会的にも成長して、夢をあきらめずに生きる』という私の個人的な課題に真正面から向き合う機会を与えてくれました。(ダリア)

このプログラムを通じて日本に行き、活動した10日間ずっと考えていたことがある。それは、「統計によると、ほとんどのフォスターユースは、海外に渡り、スピーチや制度を改善する活動などはしない」ということだ。でも僕は、IFCAの仲間や支援者とともに、この世界的な舞台に立っている。僕たちは、フォスターケアの中のただの「数字」ではないことを証明している。「フォスター・ユースについての統計」を変え続けるために、グローバルに児童福祉の変革を進めてゆこう。(ディビッド)

+ 私たちの思い +

★ SAとともに活動することについて、IFCAのユースたちは、こんなことを感じています。

SAと私たちとの関係は、時にそれぞれの価値観、専門性を生かして互いを励まし合う対等な関係であり、時に私たちの後方から見守り、支えてもらえる関係性です。SAの存在により私たちがより安心に、より自分らしくIFCAに参加できているように思います。(あおい)

SAの方々が、忙しい中、親身に支援して下さることそのものに感謝を感じ、力がわきます。そのことから、自分も、誰かの心を少しでも軽くできるような活動をしたいと思うようになりました。そうしたよい循環をつくっていく、土台のような存在だと思えます。(M.A.)

社会的養護に身を置いた人たちは大人との継続的な関係をつくるのが難しいように感じますし、それが課題だと考えています。IFCAのSAは、私にとって丁度良い距離の大人です。そして、重要な局面には相談できるような大人です。私は施設を退所すると同時にずっと住んでいた地元から引っ越して遠く離れた場所に住んでいます。知っている人が誰もいない状況だったので、地域にSAがいることは安心感を与えてくれます。(みき)





ユース ボイス(ユースの声)

ユース ボイス(ユースの声)は、若者たちの視点、考え方、経験、知識、行動など、さまざまなことを表す総称です。ユースボイスは、若者が単に「大きな声をあげて発言する」だけでは成り立ちません。大人も含めたまわりの人たちが、かれらの声に耳を傾け、意見を尊重し、共有する環境があって、初めて力を発揮します。

児童養護施設や里親家庭で育った若者たちの声が重要なのは、かれらは、フォスターケアを経験した当事者として、ありのままのストーリーを語るができるからです。

ユースボイスは、若者たちの権利を保障することと深い関係があります。措置解除を目の前にしたユースが、自分の将来を自分で決める権利を保つために、自立に関する会議に参加して積極的に発言することなどが、その例です。フォスターケアを経験した若者たちは、会議参加は目上の者にそむく行為なのでは、と気に病んだり、過去に自分の思いを無視され続けたことによる無力感が障壁となり、ユースボイスの発信が難しいと感じるかもしれません。特に、多数のユースに影響をあたえる政策協議などの集まりで意見を述べるのは、勇気もスキルも必要になります。



ユース・リーダーシップ育成プログラム

ユースボイスの発信の仕方などのスキルの体得は「ユース・リーダーシップの育成」の一環として行われることがあります。ユースボイスを重要だと感じている当事者対象の団体には、若者たちが立派なリーダーになるためのプログラムが用意されています。

「リーダー」というと、大統領や首相のような統率者的な存在や、他の人たちをぐいぐい引っ張ってゆく特別な才能の持ち手を想像しがちですが、若者がリーダーになるということには、もっと広い意味があります。

例えば:

- 1) 目標を立て、それに向かって進む。
- 2) 人のことを思いやる。
- 3) 文化や人種の違い、育った環境の違いなどを、理解しようとする。
- 4) 困難な状況の中でも、ポジティブな態度を維持する。
- 5) 友人や雇用者などとよい関係を保つ。
- 6) チームの中で、模範的な行動をとる。
- 7) 自分の力で生きる道を築く

などです。リーダーになる力を蓄え、ユースの中に、エンパワーメントが起きます。

ユースの内面的な成長

ユースにエンパワーメントが起きると、難しいことに挑戦し、人生における困難が訪れても、自己の能力を最大限に活用して乗り越えようします。児童養護施設や里親家庭で育った若者たちに自由と主導権を与え、失敗も含めた体験からあらゆることを学ぶ機会をつくることは重要です。以前は周りの大人がしていたことを、たとえ効率が悪くてもユース自身がすることによって、かれらの能力アップにつながり、内面的な成長を促します。英語ではこのユースの成長のことを「ポジティブ・ユース・デベロップメント」という言い方で表現します。

アドボカシー

アドボカシーには、公的に重要な地位にある人物に、自分の意見を主張することから、担当のケースワーカーや里親に勇気をだして自分の願いを話すことまで、さまざまなかたちがあります。ユースが内面的な成長を遂げる過程で、自分や友人だけではなく、多くの人たちの生活を良くするために活動したい、と感じることがあります。アドボカシーとは、このように、問題を提起し、実際に制度や法律などを変える力のある人たちが解決策を生み出すように導く行為です。社会的養護のもとで育った若者たちも、ユースボイスを活用して、よりよい児童福祉の実践を築く力を持っています。こういったアドボカシー活動は、自分たちだけでできる場合もあれば、大人の手助けが必要な場合もあります。



サポーターティブ アダルト (SA)

サポーターティブ アダルト (SA) とは、ユース自らが選んだ、信頼できる大人のことで、ユースが「自分は誘導されている」とか「否定的な目で見られているのではないか」という気持ちを抱くことなく、将来計画を立てるなど、冷静に判断が必要な時の相談相手になる人でもあります。SAの役目をつとめるのは、ケアを離れた元ユース、里親、ケースワーカー、教師など。フォスターケアを離れる若者たちには、心を開いて話し合え、自分を支えてくれる大人が必要です。SAとの継続的な関係は、ユースたちの社会的・経済的な状況が改善するだけでなく、かれらをあらゆるリスクから守り、トラウマや心的ストレスからの回復を促進することがわかっています。

ユース・アダルト・パートナーシップ (YA-P)

ユース・アダルト・パートナーシップ (YA-P) という言葉には、「ユースと大人の考えやアイデアが、同等の価値を持って活動の中で検討・反映され、両者が平等に決定権を持つ環境」という意味があります。そして、その環境を維持するには、大人たちが、ユースが直面している問題や、かれらの生活に影響をおよぼす世の中の仕組みや政策について関心を抱き、積極的に活動を支える姿勢が必要です。

ユース参画

ユース参画という言葉は、ユースをあらゆる企画やプロジェクトについての話し合いの中に、計画段階から参加させ、意見表明をする権利や決定権を持たせることを意味します。社会的養護のもとに育ったユースも、自分や仲間の生活がより良いものになるように、制度や政策を改善することができます。そのアクションそのものが、ユース参画と言えます。ユース参画は、ユースと大人のパートナーシップの中で実現するので、お互いが教え、学び、目標に向かって同等の立場で貢献することが重要です。ユース参画は、若者たちに大切やスキルや知識を与えると同時に、大人もまた、ユースのことをより理解するのに役立ちます。



2013 9月に大阪で開催されたIFCO（国際 Foster Care 機関）大会に、アメリカから3名の当事者ユースたちが参加し、ワークショップを行いました。この最初の海外プログラムから現在まで、米国のユース・チームは毎年9月に訪日し、日本のユース・チームとの協働を続けています。

IFCAの機関誌「ユースパブリケーション」第1号が発刊されたのもこの年でした。ユースたちの書いた記事やエッセイをまとめたこのバイリンガル機関誌は、毎年1号ずつ発行されてきました。

2014 4月に、日本ユース・チームが「子どもの権利って？ 日米の Foster Care ユースと考える」を開催し児童福祉関係者が参加しました。このイベントでは、米国ユースたちがつくった人権についてのビデオも上映されました。

6月に、日本ユース・チームが渡米。5名のユースが10日間の行程で、5つの機関を視察しました。『ストラテジック・シェアリング』のワークショップが開始したのは、この年です。また、日米ユースたちは山荘で合宿し「ユースたちが協働し、グローバルな児童福祉の改革を目指す」というIFCAのミッションを作りあげました。

9月に、米国ユース・チームが来日し、児童養護施設や乳児院、児童自立支援施設を含む、4都市8機関を視察しました。厚労省での記者会見、ISPCAN子ども虐待防止世界大会への参加。里親や施設職員、議員、研究者らと交流も行いました。この年に初めて、東京での「日米ユースサミット」が開催されました。

この年に、ユースたちによるバイリンガル・ブログ“My Voice Our Story”がスタートしました。

www.myvoiceourstory.org

2015 3月に、3名の米国ユースたちが来日し、静岡と福岡で開催されたイベントの基調講演をしました。

7月、4名の日本ユースたちが渡米し、5つの自立支援機関を視察するとともに、地域の社会的養護の当事者たちとも交流、意見交換の機会を持ちました。2日間の合宿で、日米のユースたちは、自らのビジョンの見直しをし、チームづくりと、リーダーシップの訓練を行いました。

また、日米ユースチームの中から4名が、ボストンで開催された全米児童虐待防止学会（APSAC）の全国大会に参加し、メンタルヘルスの専門家とともに意見表明をしました。

9月に行われた、米国ユースたちの来日プロジェクトには4名のユースが参加し、5つの児童福祉の機関を視察し、スタッフや地域ユースたちとの交流や情報交換をしました。TOMODACHI イニシアチブの協力により、東京での「日米ユースサミット」に、被災地である福島の子どもの養護施設のユースたちを招待することが実現しました。

3月に、4名の米国ユースたちが来日し、静岡と福岡で開催されたイベントで講演しました。

2016 7月、6名の日本ユースたちが渡米し、米国ユース・チームとともに、第1回目の“国際児童福祉合同勉強会”を行いました。日本ユース・チームのメンバーは、5つの自立支援機関を視察するとともに、地域のユースとも意見交換の機会を持ちました。2日間の合宿では、日米のユースたちは、チームづくりと、リーダーシップの訓練を行いました。

8月には、IFCAの米国メンバー3名が、カナダのカルガリーで開催されたISPCAN（国際児童虐待防止学会）学術会議に参加し、“トラウマ・インフォームド・ケア”と社会的養護についてワークショップを行いました。



日米ユースサミット (2014)



日米ユースサミット (2015)

9月には、IFCA 米国チームのメンバー6名が来日し、東京での3回目の「日米ユースサミット」を実施したほか、「社会的養護における当事者参画」のイベントを開催しました。

11月、日本ユースチームのメンバー2名が、厚生労働省の「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」の主催するヒアリングで、意見表明をしました。当事者の置かれている環境や、ケアを離れる移行期の困難さについて語り、提言書を提出しました。

2017 3月、アメリカのユースメンバーが、富士市、京都市、北九州市、福岡市、そして東京でイベントを開催しました。

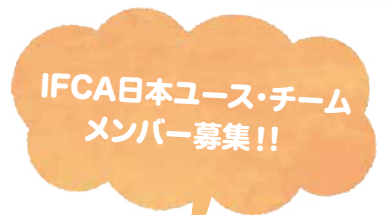
7月、6名の日本ユースたちが渡米し、米国ユースチームとともに、第2回目の“国際児童福祉合同勉強会”を行いました。

9月に行われた米国ユースたちの来日プロジェクトには、6名のユースが参加。東京を中心に、児童福祉の機関を視察し、スタッフや地域ユースたちとの交流や情報交換を行ったほか、第4回目の「日米ユースサミット」を開催しました。

10月と11月には、日本ユース・チームが神奈川県で里親研修と児童福祉施設新任職員研修でトレーニングを行いました。

2018 数名のユースによって始まったこの国際的な活動は、現在では、静岡県、関西地方、福岡県にも広がり、全国のこの4つの地域のユースたちが連携しながら、IFCAの理念と目標にそって前進しています。

夏の日本ユース・チームの渡米、そして秋の米国チームの来日プログラムは今年で6年目を迎え、イベント登壇、ユースリーダー育成プログラム、ユースブログへの投稿、機関誌の発行など、年間をとおしてさまざまな活動をしています。



新しいユース・メンバーを募っています！

私たちの活動に興味のある17歳から27歳までの当事者ユースの方は、氏名・年齢・住所・連絡先・志望動機を記載したメールを info@ifcasettle.org まで、お送りください。担当の者が、面談の予約について、ご連絡を差し上げます。



— + IFCAについて + —

IFCAのミッションは、国を超えた多様な考えの交流、協働、つながりづくりを通じて、子ども家庭福祉のシステムを前進させることです。

私たちは、すべての子どもと若者が愛され、支えられ、自身の可能性を最大限に発揮できる社会を目指し、現在3つの領域で事業を展開しています。

- 1 ユース**：児童養護施設や里親家庭で育った若者たちの国を超えた交流と協働のためのプログラム
- 2 ケアギバー**：里親や施設スタッフなど、子どもの日々のケアにあたる人たちのための支援プログラム
- 3 プロフェッショナル**：ケースワーカーや臨床心理士など、子ども家庭福祉の分野で働く専門職のためのプログラム

IFCA (イフカ) International Foster Care Alliance

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 1-33-6-202

TEL: 010-1-888-447-IFCA (4322) メールアドレス: info@ifcaseattle.org

■IFCAのホームページ www.ifcaseattle.org

■この小冊子をお求めの方は、お名前と住所、ご希望の部数を書いて、上記のメールアドレスに、お送りください。

IFCA ユース・プロジェクト パンフレット 2019年2月10日発行

執筆・編集: 佐藤智洋・Y.N. ユース・アドバイザー: あおい・高橋未来・M.A.

イラストレーション: 畑山麗衣 デザイン: 横山ひろあき (Studio Jam-Sand.)

編集協力: 永野咲 (昭和女子大学 助教) / 久保樹里 (大阪歯科大学 講師) / 粟津美穂 (IFCA エグゼクティブ・ディレクター)

*この小冊子は、日本財団の協力と助成により、発行の運びとなりました。ここに御礼申し上げます。

